

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700311		
法人名	メディカルケア御所ノ内株式会社		
事業所名	御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (3階 嵐山)		
所在地	京都府京都市右京区西院追分町5番地		
自己評価作成日	平成29年11月3日	評価結果市町村受理日	平成30年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&IjyosyoCd=2690700311-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成29年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・会議室を提供(町内会へ)町内の運動会への参加。小学生の体験受け入れなど通じて事業所やご利用者を理解して頂けるように、今後も交流を広げたい。 ・ショッピングモールや、公園がすぐ近くにあることからご利用者様に気分転換をして頂ける環境が整っている。 ・京都武田病院のグループ施設のため医療との連携が強く、ご入居頂いている方の受診は施設職員が行かせて頂くため、ご家族様の負担も少ない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は平成29年3月に開設された。理念に「①家庭的に温かなケアを提供します。②ひとりひとりに寄り添うケアを提供します。③確かな知識、技術、方法でケアを行います。」掲げている。7か月を経過し、利用者数27名(3ユニット)が生活されている。隣接する公園やイオンモールに、日常的に散歩や買い物に出かけられる環境がある。運営推進会議には、家族、町内の方、民生委員、老人福祉委員、他施設の施設長など、多様なメンバーによる活発な意見交換がおこなわれている。小学生の体験学習も開始されている。職員は、8割がキャリアのある方、2割が新人で、オープニング研修や業務を通し介護技術の向上に努めるとともに、職員間のコミュニケーションを充実させている。職員は互いに意見を出し合い、利用者の安心、安全について話し合いながらチームケアを実践されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を見えるところに掲示して、その理念を理解し実践している。毎週月曜には職員皆で理念を復唱している。	理念は玄関や各ユニットに掲げるとともに、週1回唱和している。施設長は内部研修を機会ととらえ、理念実行のサービスについての話をおこなっており、今後も継続の予定である。職員は、利用者の横に座って過ごすこと、家庭的な暖かさなど模索し日々ケアに励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や施設の夏祭り・小学生の体験学習など、少しずつ交流の機会が増えてきている。	地域情報は回覧板や運営推進会議メンバーより得ている。地域のふれあい祭りや地藏盆には、利用者とともに参加している。地区運動会には職員が参加した。事業所の夏祭りは、地域の方50人の参加を得て交流がおこなわれた。小学生の体験学習も受け入れている。介護相談案内を町内にチラシを配布し、ホームページには広報している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のホームページでブログを開設し、認知症の方の普段の暮らしなどを開示し理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所内の状況を報告し、ご家族様、地域の方、参加事業者からの意見や情報をサービス向上に活かしている。	会議は、家族、自治会長、町内の方、民生委員、老人福祉委員、他の事業所の施設長、包括支援センター職員などの参加を得て、小規模多機能と合同でおこなっている。多様なメンバーで、報告や意見交換が活発におこなわれている。全家族に議事録は送付しているが、毎回の会議への参加依頼はできていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事故が起きた際に報告を行うなど協力関係を築ける努力をしている。	運営推進会議録を届けたり、事故などの報告に出向いた際に、担当者となんでも相談できる関係作りを努めている。右京事業者連絡会には毎回参加して、つながりを築くよう努力している。	

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (3階 嵐山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを、正しく理解できるように、来月研修を予定している。	研修はオープニング時にもおこなっているが、内部研修でも計画している。「自己点検シート」を用い、意見交換をおこなっている。職員の言葉づかいには特に注意を促している。安全を目的に、玄関、廊下、フロアにカメラの設置がある。転倒のハイリスクの方には、家族の了解を得て赤外線センサーを設置している。外に出たい素振りを示される方には、ごみ捨て、買い物、散歩などを職員とともにおこなわれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を予定している。介護職員として虐待防止の大切さを認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解と活用はできていないが、来月内部研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、不安や疑問点があるカ所については特に丁寧に説明し納得、理解してもらるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置をするほか、ご家族様の面会時に意見や要望がないかお伺いしている。	意見箱は玄関の目立つ位置に設置している。家族は毎日来られる方、1~2か月毎の方それぞれである。職員は聞き取った意見を連絡帳に記載し、職員間で共有している。必要に合わせ会議でも話し合っている。家族の希望があり、利用者の座席の配置を変更した例がある。介護サービス満足度調査は行う予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議で職員同士で意見・提案を出し合い、主任会議にて反映して頂いている。	ユニット会議で職員から出た意見は、リーダー会議にあげられ、必要なら施設長会議で検討される。職員は係活動で、研修、広報、レクリエーション、事故(ヒヤリ・ハット)、環境整備を担当し意見を述べている。職員からのアンケート調査も実施を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	執務考課表で自己評価を行い、職員個々の考えや思いを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行い、知識・技術の向上に努めている。フロアにおいても未経験者に対し、経験者が積極的に指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施していないが、今後取り組み質の向上に努めたい。グループ施設同士で出た工夫など共有しサービスの質の向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴だけでなく、行動からも要望・不安を読み取り、職員も環境の一部と考えて、よい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの相談、家庭での状況など伺いながら信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居前の面談でアセスメントを行い、どのようなサービスを導入すればよいか見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身にて出来ることはして頂き、本人のペースに合わせた生活が出来るように、努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加をして頂くことで、共に本人を支えていく関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できる体制や手紙のやり取りをして頂き、関係が途切れないよう努めている。	利用者は京都市全域から入居されており、馴染みの人や場所との関係継続はあまりできていない。ドライブでの外出の途中で、なつかしい街並みを見て、利用者は喜ばれている。なかなか会えない知人には、手紙のやり取りを職員が勧めている。また、職員は家族宛に、毎月の利用者の状況報告を手紙でおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席の配置を考え、利用者同士で会話できるように配慮している。介護度や趣味などを考え、レクリエーションなどの行事を楽しめるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了された方がおらずまだ経験はしていないが、サービス終了されたとしても、支援を行っていきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症であっても一人一人の言動や行動から思いを読み取り、希望や意向に添って近づけるよう努めている。	入居前の自宅訪問調査は施設長、主任が居宅ケアマネジャーに同行し、利用者(家族)の思いを聞き取ってアセスメントシートに記録している。日々の生活の中で職員が聞き取った情報も記録に残し、申し送りや連絡帳への記載で共有を図っている。職員は入浴時など1:1になれる時間に、できるだけ本人の思いを聞き取るように心掛けている。意思表示できない利用者に対しては、表情で判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や本人・家族様からの話を伺い、今までの暮らしを継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人が求めている生活のリズムを出来るだけ尊重し把握する。また小さな変化にも気づけるよう努めている。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (3階 嵐山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様との会話から、意見・希望を知り、ご本人は困難でも、関わりから必要とされていることを知り、職員それぞれが、感じたことをもちより、話し合い計画を作成している。	毎月のユニット会議でケアカンファレンスの時間を取っている。毎月のモニタリング、3か月ごとに見直しをしている。日常の様子や気づきは介護記録と連絡帳に記載し、連絡帳はフロアに置き情報を共有している。介護計画には利用者(家族)の思いが取り入れられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を用意し、日常の様子を随時記録し共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等の付き添いを施設職員で行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	向かいのショッピングモールや、近くのスーパー、公園などへ職員と外出し楽しむことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療により、報告相談できる環境にある。	利用者全員が、協力病院である京都武田病院をかかりつけ医とし往診を受けているが、他院の選択はできる。他に、希望者は歯科医の訪問診療や訪問マッサージを受けている。他科受診は看護師が同行し、医療情報は専用の連絡帳に書き、職員間で病状を共有している。夜間のオンコールは看護師が受け、指示をしている。緊急時の救急搬送は病院を限定せず、近隣の救急病院に搬送している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりから、変化に気づき看護師に報告。相談している、また情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を通じた情報交換を行い、また退院時にはカンファレンスを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ご本人・ご家族に看取りや重度化について説明し意向を聞き、本人に出来る支援ができるよう取り組んでいこうと考えている。	入居時に「事前意向確認書」をもとに、利用者・家族の意向を確認している。また、「看取り介護と重度化に係る指針」も説明して、グループホームでの看取り介護についての同意書も取り交わしている。開設間もないこともあり、内部研修には組み込まれていないが、管理者は、「今後勉強していきたい」と話されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に対するマニュアル化はしているが、実践力を身に付けていない経験の浅い職員もいるので、研修会を定期的に予定する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は受けているが、全職員が受けていない。	自衛防災組織表を作成し、更新もきちんとおこなっている。昼夜想定で年2回の消防訓練を消防署立ち合いのもとでおこない、利用者、職員、家族が参加している。利用者とともにベランダに逃れ待機したり、消火器の取り扱い訓練をおこなっている。自然災害に対する訓練もこれから取り組む予定である。訓練に地域の方の参加はない。	災害訓練を運営推進会議に併せて、メンバーとともに開催されてはどうか。地域代表や家族の参加もあり、有事に際しての問題点や地域との協力体制など、有意義なアドバイスがいただけるのではないかと期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けを行っている。	接遇・プライバシーの研修を年間計画に取り入れ、オープニング時の研修においてもおこなっている。特に介護技術研修には、経験の浅い職員が出席できるように考慮している。排泄、入浴の介助は希望があれば同性介護で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	開かれた質問を心がけ、一人一人に合った声掛けや働き方に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望を最優先に出来るように努めている。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (3階 嵐山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服をご自身に選んでもらったり、定期的な訪問美容の提供を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは決まっているが、メニューに関心を持って頂けるように工夫しているまた本人が食べやすい形で提供したり、食後の片づけをして頂いたりしている。	昼と夜の副菜は業者から配達される。一口大、刻みの形態も可能である。ミキサー食は事業所に対応している。温めて陶器の器で食している。自前の食器の方もおられる。主食、みそ汁、朝食、おやつは職員と利用者で作っている。朝食とおやつは、利用者とともに買い物にしている。食事時は職員も同席している。ホットケーキ、鈴カステラ、たい焼きなど、一緒に作るおやつはとても人気がある。誕生日ケーキも手作りしている。年末年始には献立を追加して豪華に楽しむ予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事を表に記録し、職員間で情報の共有に努めている。また個々に合った食事形態や食事を考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはしっかりと行っている。ご自身で出来る方は見守りを行い、難しい方は職員の介助にて清潔保持に努めている。義歯のかたも毎回洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助のいる方は排泄のタイミングを把握し、誘導を行う。また羞恥心に配慮した介助を心がけている。	水分・排泄チェック表を活用し排泄のパターンを把握し、利用者個々に合わせたトイレ誘導を同性介助でおこなっている。失敗が減り、リハビリパンツから布のパンツに変わられた方もいる。夜間も基本はトイレに誘導している。また、失禁時はシャワー浴で清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や日中の運動の機会を提供し、水分摂取をしっかりと行い、便秘予防に対応し、自然排泄を心がけている。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (3階 嵐山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・回数は決まっているが、体調や気分により変更個々の意思に対応し、柔軟に対応している。	入浴は週2回を基本に、昼間におこなっている。足を洗いたいという方には対応している。同性介助の希望は受け入れている。お湯は毎回入れ替え、1:1で介助している。今の所、入浴を拒否される方もなく、職員は転倒に注意しながら話をゆっくりと聞く態度で入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や、その日の状況や状態に合わせて、休息を取っていただいている、また昼夜逆転しないように注意している。常に寝具の清潔を保持するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を把握し、副作用による変化や症状に気づけるように心がけている。服薬ミスが無いように二人以上の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味ややり甲斐の把握に努め、楽しみを持って活動できる環境づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい時は外出し季節の変化を感じていただくよう努めている。回数は少ないが少し遠出をしたり、今後もそういう機会を増やしていくよう努めていく。	事業所と道1つ隔てて南にイオンモール、西に公園がある。公園には散歩にでかける。イオンモールには、食材の購入や個人的な買い物、催し物に参加する、家族との食事など日常的に出かけている。公用車が二台あり、大人数でドライブに出かけることができる。最近では高雄の紅葉を楽しまれた。個別希望による遠出はおこなっていない。	年に一度でも個別支援として、馴染みの場所や希望を叶える外出をさせてはいかがか。できれば家族の協力、参加も得て進められることを望む。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のお金を家族様よりお預かりし、ご本人様のご要望に合わせて買い物と一緒にしたりするよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙による近況報告は職員が行っているが、ご本人様の要望があれば、手紙のやり取りなどの支援に努めている。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (3階 嵐山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調節や温度の調節をその時の状況に合わせて配慮している。カーテンを開けるなどし、季節やその日の天気を感じられるようにしている。	3階にあるリビングルームは、窓を大きく取り明るく静かである。利用者はテーブルの椅子やソファで、家族や職員とともにくつろがれている。ベランダでは、きゅうり・ナス・トマトなどを育て、栽培を楽しんでいる。大きな連絡用ホワイトボードには、利用者の似顔絵を描き、事務的な感じを無くしている。壁面には折り紙で秋の紅葉を装飾して、季節感を出している。テレビを見たいと希望される方たちは、テレビに近い座席で食事をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配慮や、席の工夫を行いストレスをなるべく感じないように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、馴染みの物・ご自身が取り組まれた作品を居室に飾り、居心地良く過ごして頂ける空間づくりに努めている。	居室は、廊下を挟んで南北に配置されている。安全の配慮で、窓は高い位置にあるが外の光を採り入れられる。ベッド、エアコン、カーテンは備え付けである。冷蔵庫やこたつの持参は、取り扱い上お断りしている。テレビや家具、仏壇を持ってこられている。比較的荷物は少ない。季節ごとの衣類の入れ替えは家族の支援がある。	居室がさっぱりして少し寂しく感じる。利用者個々の歴史や大切なもの、自慢のものに囲まれた自宅(自室)が継続できる環境づくりを望みたい。個別性のある介護支援につなげることを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	手すりを設置したり、各居室に表札を設置し、ご自身の部屋がわかるようにしている。個々の過ごしやすい環境づくりのための物の配置に努めている。		